

地域づくり型の介護予防施策の推進 ～地域診断データを活用した健康格差対策～

自治体名：熊本県御船町

御船町地域包括支援センター

住 所：熊本県上益城郡御船町御船995-1

電 話：096-282-2911

URL： tiikihoukatsu@town.mifune.lg.jp





《御船町の概要》

東西約20km 南北約10km

総面積は99K^m²

林野面積56.3%

10地区、83行政区

過疎化が著しい中山間地域

行政機能が集中した平坦地域

人口:16,923人

65歳以上人口:5,778人

75歳以上人口:2,965人

高齢化率:34.1%

介護認定者数:1,021人

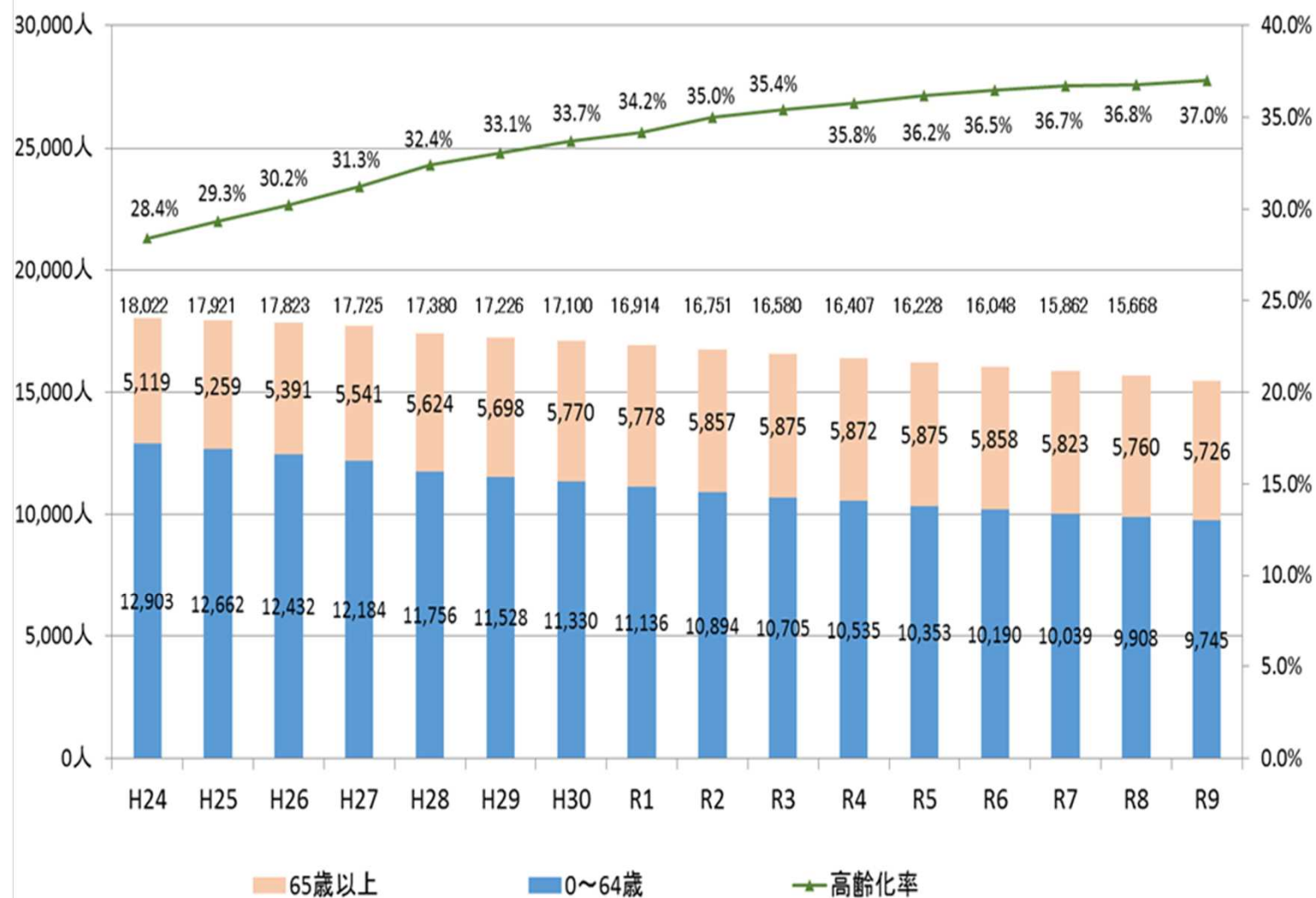
認定率:17.6%

(平成31年4月1日現在)

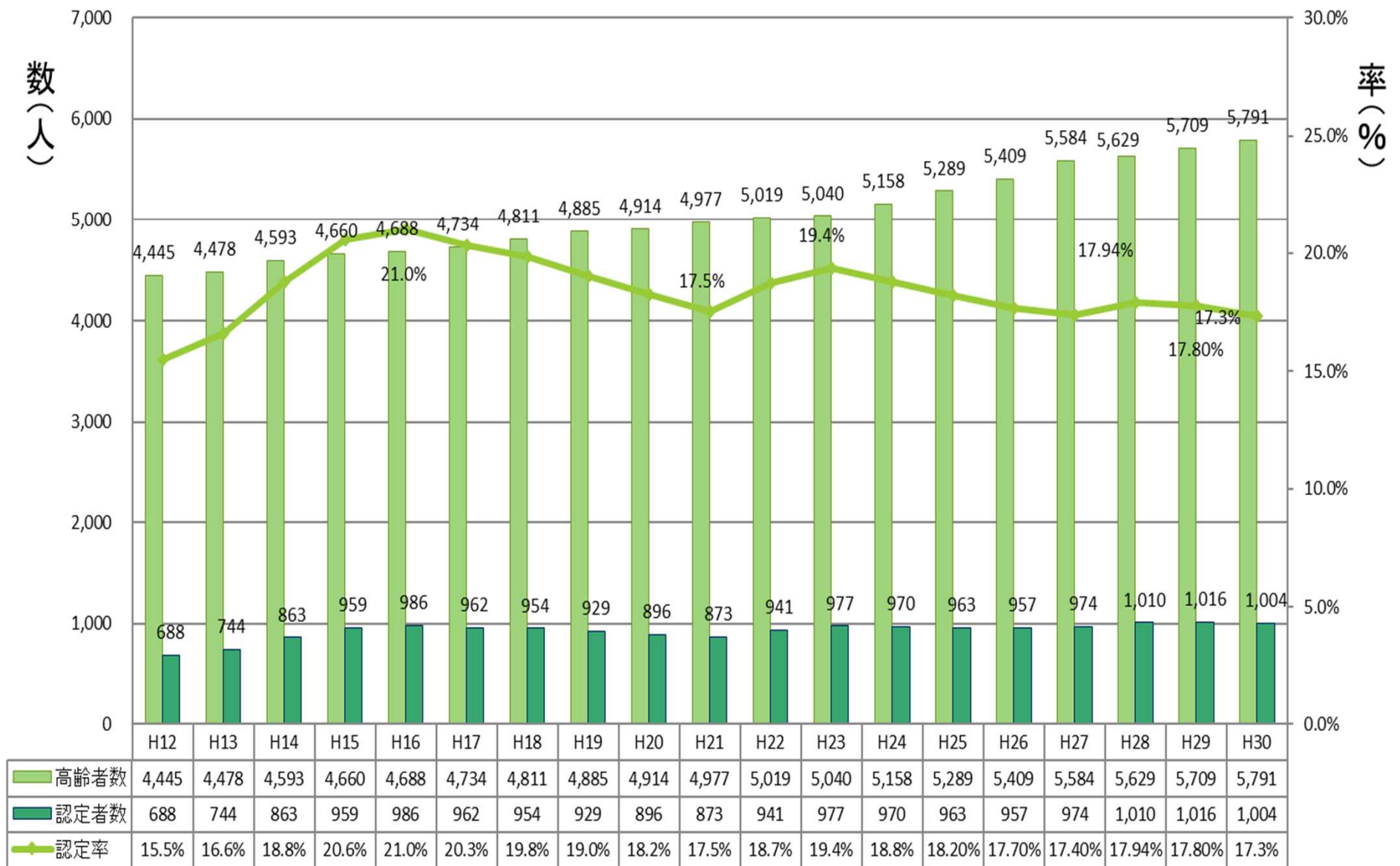
第7期介護保険料 6,400円

新総合事業 平成27年10月移行

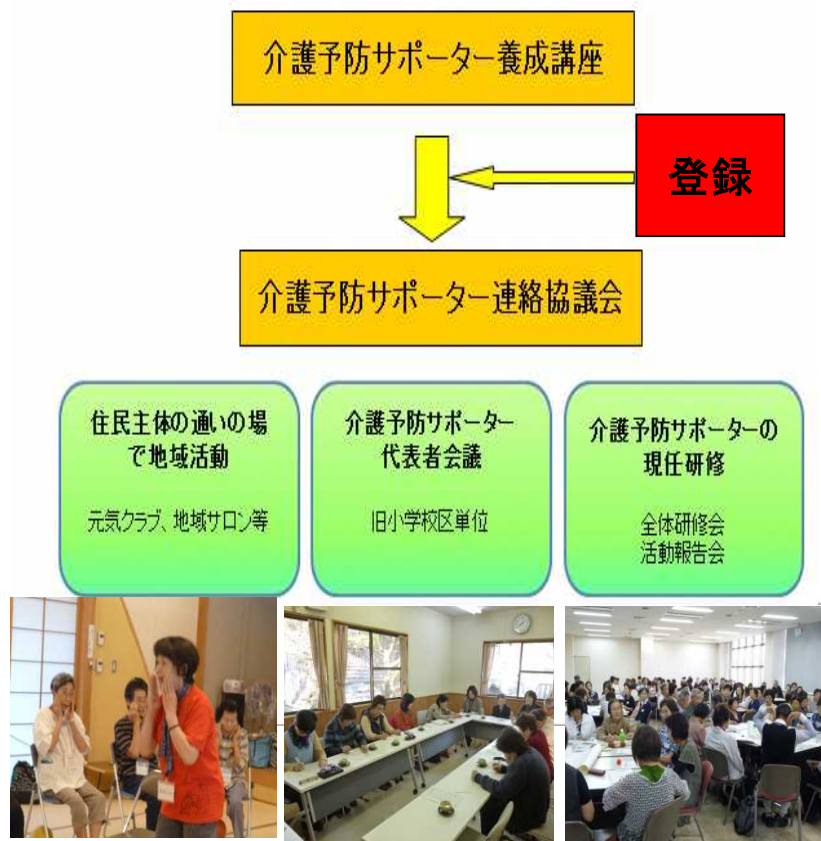
御船町人口における高齢者の割合



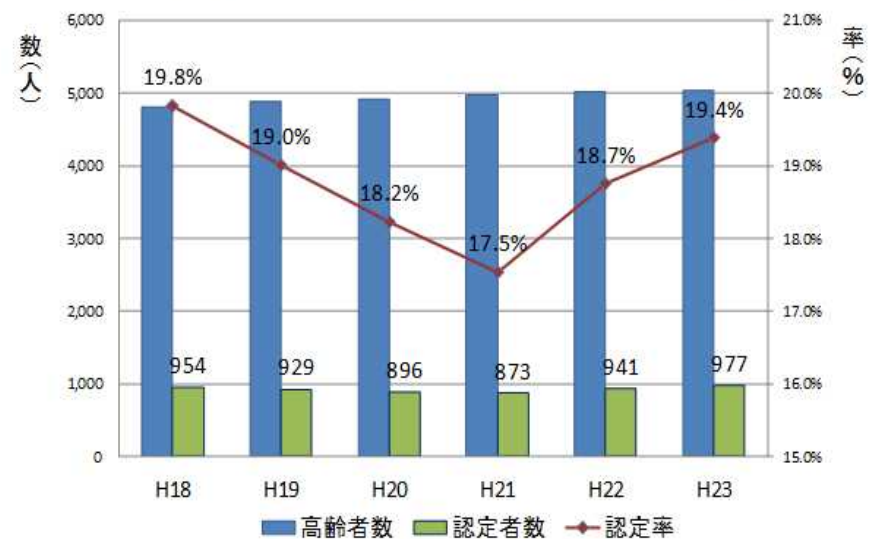
御船町高齢者人口と要介護(支援)認定率



御船町の介護予防事業の推進体制



御船町の要介護(支援)認定者数・率の推移



厚生労働省 介護保険事業状況報告月報 各年10月

《地域診断データを活用した取組みへ》

町の実態を把握するために調査を行い、調査結果に基づいて多部署連携による地域づくり型の介護予防施策、及び健康格差対策を推進し、平成28年度に施策の効果を評価した。

地域診断データを活用した健康格差対策の経緯

時 期	概 要
平成25年度	・平成25年度健康とくらしの調査(JAGES調査) ・調査結果をもとに、「地域包括ケア推進会議(多部署連携)」の定期開催開始
平成26年度	・優先課題を「閉じこもり」、重点対象を中山間地「A地区」に決定 ・第6期介護保険事業計画に格差対策の数値目標を盛り込む ・A地区の住民組織との協議・施設整備
平成27年度	・A地域で事業開始（ホタルの学校） ・A地域活性化協議会の体験交流部、加工部、生産部に加え福祉部が設置 ・民間組織を含めた協議体設置準備(他地域への横展開)
平成28年度	熊本地震、豪雨災害 ・ホタルの学校を一般介護予防事業へ移行(7月からスタート) ・A地域配食サービス開始(18歳未満、65歳以上利用分は社協より一部補助) ・平成28年度健康とくらしの調査(JAGES調査)
平成29年度	・3年後の評価で閉じこもりの地域格差の是正がみられた ・震災復興に向けた地域単位の検証 ・第7期介護保険事業計画に新たな格差対策の数値目標を追加:「笑いの頻度」 ・重点対象をB地区に決定

庁内部署間連携を目指した「地域包括ケア推進会議」



様々な部署が参加

＜議題例＞

- ・地域診断データワークショップ
- +
- ・仮設住宅の現状と課題
- ・避難行動要支援者名簿の運用と課題
- ・生活困窮者自立支援制度での高齢者への関わり
- ・健康づくりと持続可能な社会保障に向けて
- ・家庭から出る一般廃棄物
- ・田代西部地区への支援について



《参加者》

地域防災・環境・学校教育・社会教育・建設・企画振興・農林企画・商工観光・税務・
国民保険・健康推進・介護保険・社会福祉・地域包括支援センター・社会福祉協議会
職員・JAGES研究者

「健康とくらしの調査」(JAGES調査※)

平成25年度調査：無作為抽出の65歳以上の要介護認定を受けていない高齢者2,000人を対象。

(平成25年10月実施、有効回答率71.6%)

平成28年度調査：65歳以上の要介護認定を受けていない高齢者(但し要支援を含む) 4,821人を対象。

(平成28年10月実施、有効回答率60.6%)

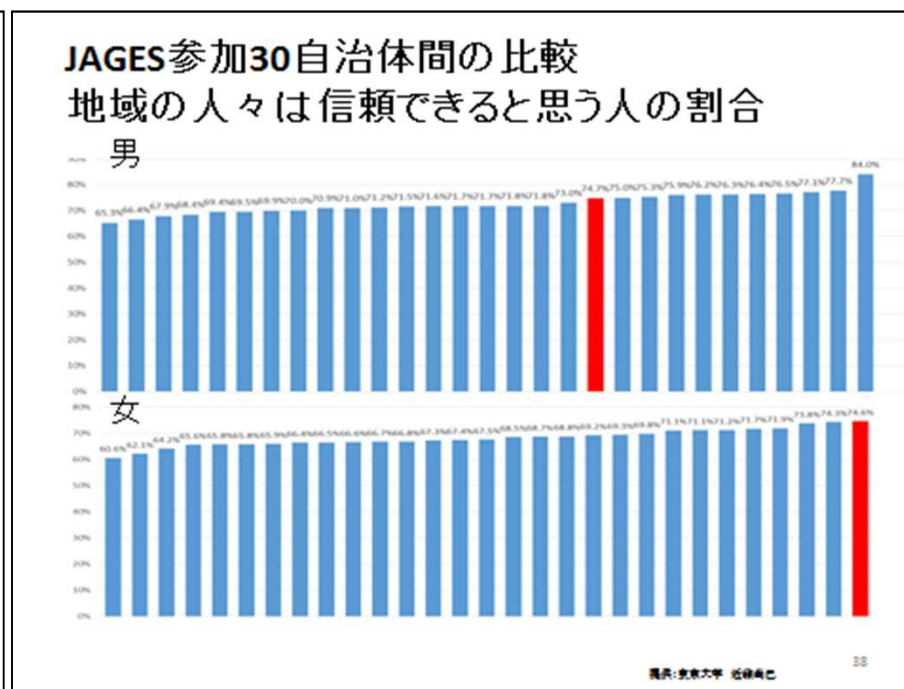
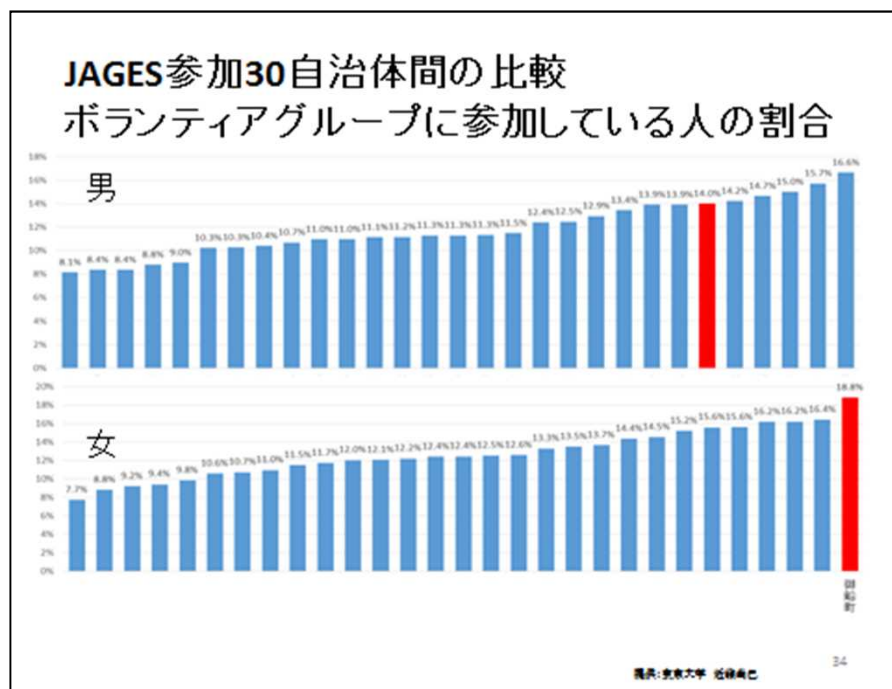
調査項目：身体的・精神的健康、社会経済状況、近隣住民との社会的関係や社会参加の程度などについて調査。

※日本老年学的評価研究(JAGES)は、全国30以上の市町村と共同研究を行っており、3年ごとに高齢者に対する無記名郵送自記式調査を実施している。

平成25年度調査は、参加市町村30、発送数約19.5万人、回収数約13.8万人、回収率71.1%

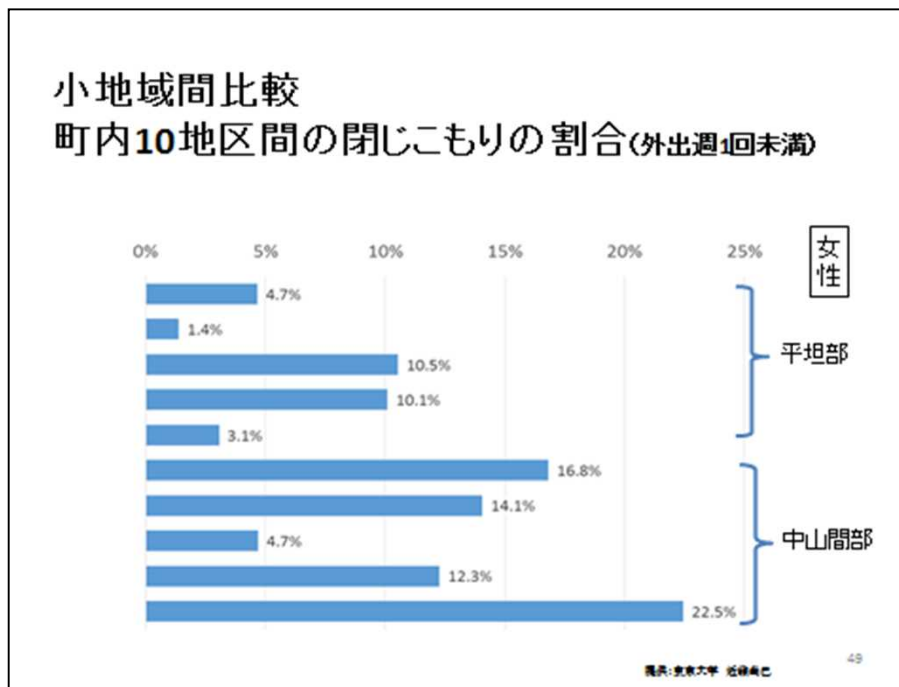
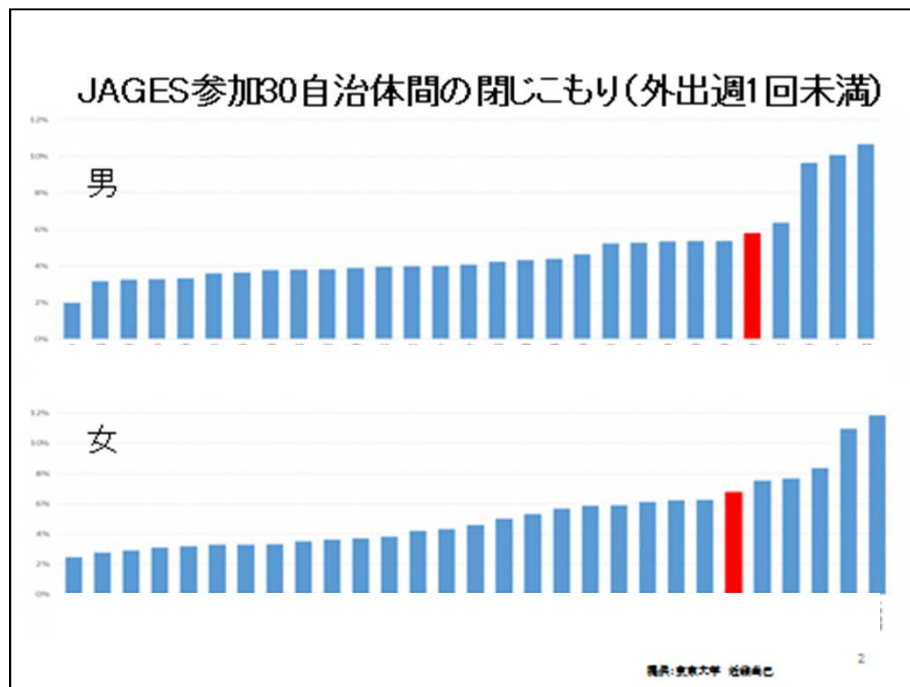
平成28年度調査は、参加市町村40、発送数約40万人、回収数約20万人、回収率69.5%

平成25年度「健康とくらしの調査」結果から見てきた 御船町の特徴



- 御船町はJAGES調査に参加している他の自治体に比べて、住民同士の信頼が高く、社会参加も多い。

平成25年度「健康とくらしの調査」結果から見えてきた 御船町の特徴



- しかし、一方で閉じこもりの割合が高い。(「閉じこもり」の定義は、病院受診や畑仕事を含む外出の機会が週1回未満をさす。)
- 特に町内の地域間比較では、中山間地は平坦地よりも社会参加や助け合いが豊富にされている一方で、閉じこもりの割合が高いという、地域間の「格差」が存在した。

第6期介護保険事業計画に明記 閉じこもり地域格差対策の短期・中期・長期目標値

	平坦部	中山間部	割合の差	割合の比
現状	6. 1%	11. 1%	5. 0%ポイント	1. 83倍
第6期	6. 0%	10. 1%	4. 1%ポイント	1. 68倍
第7期	5. 5%	9. 0%	3. 5%ポイント	1. 64倍
第8期	5. 0%	8. 0%	3. 0%ポイント	1. 6倍

※閉じこもり高齢者の割合（年齢調整済）

最優先課題を「閉じこもり対策」、「中山間地」にターゲットを絞る！

A地区でのワークショップ(平成26年度)

取組内容

第1回住民ワークショップ(参加者:25名)

○平成26年10月20日(月)19:00~21:00
内容 事業主旨説明会・地域課題の確認
講演「健康とくらしの調査から見えてきたこと」
テーマ「地域の課題を確認しよう！」

【地域の課題】

- ★連れ合いが亡くなると閉じこもりになりやすい
- ★一人暮らしの高齢者の災害時の避難が困難
- ★協議会の活動を地域全体に広げたい。
- ★自分が元気でないといけない。



第2回住民ワークショップ(参加者:13名)

○平成26年11月18日(火)19:00~21:00
テーマ「地域の課題解決に向けてアイデアを出し合おう！」

【アイデア】

- ★配食を考えていた。集まってもらって皆で食べると汁物が出せる。
- ★高齢者の社会参加の機会を増やそう！
- ★収入が得られる仕組みを構築しよう！
- ★旧滝水小中学校のトイレを使えるようにしてほしい！



第3回住民ワークショップ(参加者:17名)

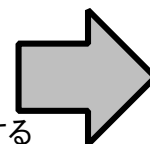
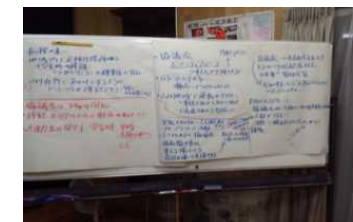
○平成26年12月16日(火)19:00~21:00
テーマ「次年度の事業の企画書を作ろう！」

【見守り・配食グループ】

- ★現在ある見守り隊との連携
- ★配食・会食へのお誘い
- ★名簿づくり

【集いのグループ】

- ★なかなか家から出てこれない人に来てもらうようにする
- ★旧学校施設を活用して集まろう
- ★畳を置いて休憩所をつくる



旧滝水小中学校施設整備の実施

介護予防・生活支援サポーターの養成

A地域社会参加促進事業

【対 象】

A地域の高齢者等

【活動場所】

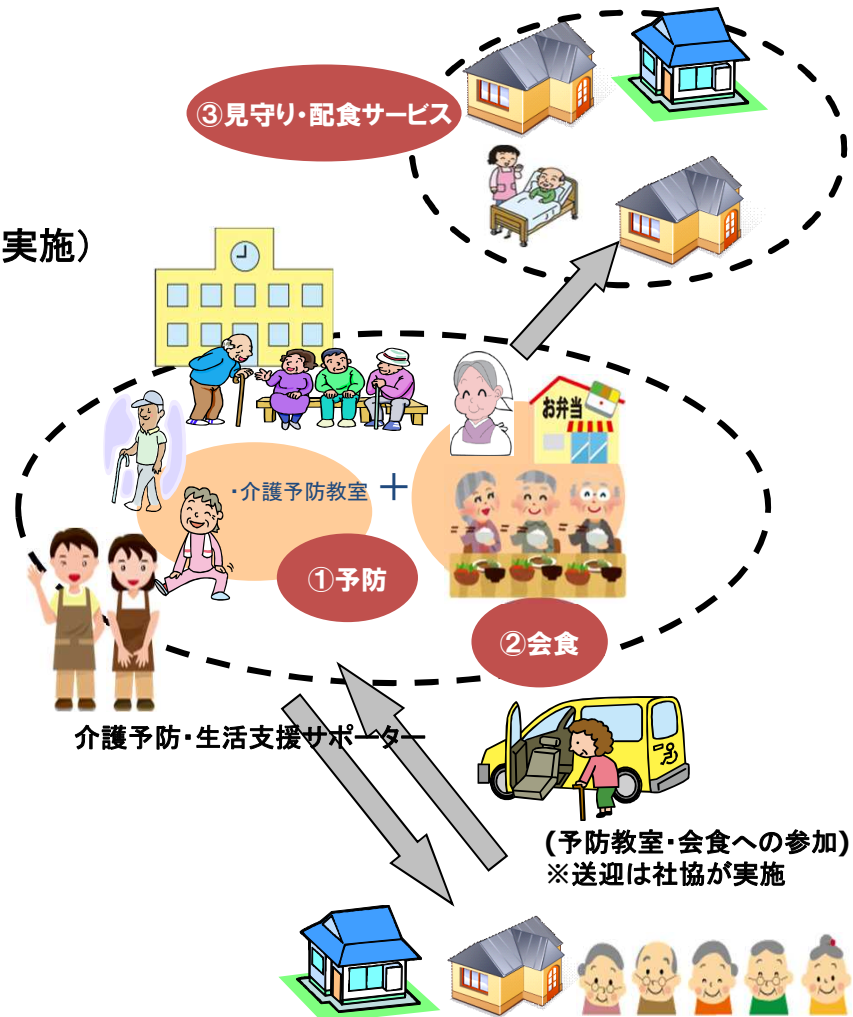
廃校の小・中学校施設を改修し活用

【活動内容】

- ①介護予防教室『**ホタルの学校**』の開催(月1回実施)
1時間目(運動)、2時間目(各種活動)
- ②**会食**の実施(月1回実施)
閉じこもり予防や健康維持を目的
- ③見守りを兼ねた**配食サービス**の実施(月1回)

【サービス提供の担い手】

- ・**A地域活性化協議会**
体験交流部・加工部・生産部・福祉部
- ・介護予防・生活支援サポーター(福祉部)
- ・地域住民(郷土の歴史や民話などの講師)
- ・御船町社会福祉協議会



A地区の地域活動の様子

ホタルの学校
体操の様子
サポーターが
声かけをしながら行います



ホタルの学校
給食の様子
みんなで一緒に食べます



介護予防・生活支援
サポーター

見守りを兼ねた
配食用弁当



平成25年度調査と平成28年度調査の比較

町全体では、

- 当初の目標を上回る閉じこもりの地域格差の是正がみられた。

※閉じこもり高齢者の割合（年齢調整済）

	平坦部	中山間部	割合の差	割合の比
平成25年度調査	6.1%	11.1%	5.0%ポイント	1.83倍
第6期目標値 (平成28年度調査時)	6.0%	10.1%	4.1%ポイント	1.68倍
平成28年度調査	5.7%	8.3%	2.6%ポイント	1.45倍

A地区では、

- 趣味の会に月1回以上参加している人の割合が22.1%ポイント増加
- ボランティアに参加している人の割合が9.7%ポイント増加
- 月3～9人交流する友人がいる人の割合が9.5%ポイント増加
- 要介護リスク者の割合が14.0%ポイント減少

第6期計画を評価し 第7期介護保険事業計画では

➤ 第6期で立てた「閉じこもり」の地域格差対策の目標値を達成することができた。地震の影響が懸念される。

※引き続き「閉じこもり」の地域間格差の解消に努める。

➤ 震災による健康への影響についても検討。

抑うつの人が多い地域では、笑いの頻度が低い人が多い。

※復興に向けて、週1回以上の笑う機会の創出を支援する。

（B地区を新たな介入地域に選定）

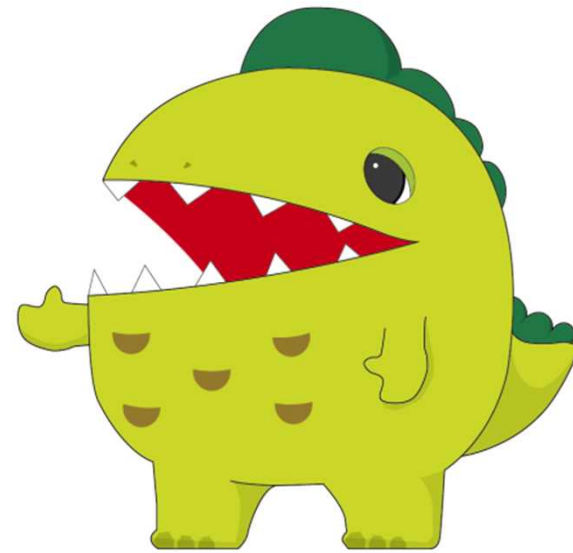
【考察】

- 多部署連携会議での見える化したデータの活用は、「中山間地の閉じこもりが大切」という課題を部署間で共有。
- 第6期介護保険事業計画に格差対策の数値目標が盛り込まれ、目標設定と客観視票によるマネジメント計画が完成。
- 閉じこもり格差対策のPDCAサイクルを回すことができた。
 - ・3年後の変化として、閉じこもりの地域格差が是正。
 - ・介入地域では、社会とのつながりの項目において改善。
- 部署間の連携により効果的な住民支援が可能となり、活動量が増えたり、社会的サポートが増えたりすることで、結果として社会環境の整備を通じた健康増進が図られた。

【結論】

- ・健康格差対策は、様々な部署や組織や住民を巻き込みながらデータで進める。
- ・多様な利害関係者を巻き込んで進める事業ほど、進むべき方向性を見失わないように、目標設定と評価・改善のプロセスを一層明確にする。
- ・今後は、格差対策の評価と改善を繰り返しながら、行政以外の組織や住民組織などとも連携の幅を広げ、町全体の健康づくりへと広げていく。

この後のスライドは
参考資料です。



平成28年熊本地震

4月14日 21:26 前震発生

御船町 震度 5 強（最大震度 7 益城町）

4月15日 0:03 余震発生

御船町 震度 5 強（最大震度 6 強宇城市）

4月16日 1:25 本震発生

御船町 震度 6 弱（最大震度 7 益城町）

さらに、6月の豪雨…

大変な時ほど、 「つながり」「助け合い」が必要

■生活が苦しい時

■災害の時

- ★ 熊本地震後、2ヵ月後には、3分の2の地域サロンが稼動していた。
4ヵ月後には、残りの3分の1の地域サロンが稼動していた。

※地域づくりによる介護予防の取り組みは、災害時に住民の支え合いの力になっていた。

一般介護予防事業

平成19年より、地域住民を対象に『**介護予防・生活支援サポーター**』を養成。
現在350名を超えるサポーターがおり、地域でご活躍いただいている。

※平成30年度実績

事業名	内容	備考
元気クラブ	・対象者:65歳以上の高齢者 ・頻 度:月2回 ・特 徴:介護予防・生活支援サポーターによる体操等の実施。送迎あり。 ・委託先:御船町社会福祉協議会	実参加者数:188名 延参加者数:2,571名 平均年齢:83.9才
水越ホタルの学校	・対象者:水越在住で65歳以上の高齢者 ・頻 度:月1回 ・特 徴:水越地域活性化協議会を中心に運動や学習会、食事会の開催 ・委託先:御船町社会福祉協議会	実参加者数:31名 延参加者数:263名 平均年齢:82.4才
認知症予防教室	・対象者:間所/松の生・向山在住の65歳以上の高齢者 ・頻 度:月2回 ・特 徴:体操・脳トレ等の実施。送迎あり。 ・委託先:御船町社会福祉協議会	実参加者数:13名 延参加者数:186名 平均年齢:82.9才

一般介護予防事業ではありませんが・・・

地域サロン	・頻 度:月1～週1回 ・場 所:町内66ヶ所(72/83行政区) ・対象者:主に地域の高齢者 ・特 徴:介護予防・生活支援サポーター等が中心となり実施・運営。 ・実施主体:御船町社会福祉協議会	実参加者数:978名
-------	---	------------

介護予防・生活支援サービス事業

■ 通所型サービス

※平成30年度の参加者を指す。

事業名	内容	備考
指定通所型サービス	従前の通所介護相当	H31年3月利用者数 週1回:25名 週2回:25名
いきいき トレーニング教室 (通所型サービスA)	・頻 度:週1回 ・場 所:ひばり荘/北田代公民館 ・対象者:チェックリストに該当する者又は要支援認定者 ・特 徴:介護予防・生活支援サポーターによる体操等の実施。送迎あり。 ・委託先:御船町社会福祉協議会	開催回数:129回 実参加者数:63名 延参加者数:1,574名 平均年齢:84.2才
元気が出る学校 (通所型サービスC)	・頻 度:週1回 ・場 所:老人憩いの家(眺世庵) ・対象者:チェックリストに該当する者又は要支援認定者 ・特 徴:4ヶ月間の短期集中。専門職による実施。送迎あり。 ・委託先:くまもと健康支援研究所	開催回数:48回 実参加者数:41名 延参加者数:522名

■ 訪問型サービス

事業名	内容	備考
指定訪問型サービス	従前の訪問介護相当	H31年3月利用者数 週1回:14名 週2回:15名 週3回:8名
生活たすくる サービス事業	住民ボランティア(たすくるメイト)による生活支援サービス(買物、掃除等)	H31年3月利用者数 週1回:12名